※

昔々、六郷町にそばやをしている夫婦がいた。非常に実直な人たちであったため、みんなに好かれていた。

ある年の元日、近所のえんきょが神参りをして、そば屋の前を通ったら、元日なのに、戸がしまっている。それでえんきょが入っていってわけをたずねたら、「きのう不思議な夢をみたので、あんじておきられないのだ」という。そこでどんな夢かと聞いたら、「仏さんのろくごさだんごをあげた。その外新しいはかりが折れてしまった」という。えんきょは考えていたが、やがてそれはいい夢だ。早くおきて神だなさ灯明をあげておがめという。それでその通りにしたところ、えんきょは、「よくきけ、ここは六郷だべ、だから、ろくごで金もつものはおればかり」と、判断した。

それで夫婦はよろこんで、それからは一生けんめい働いたので、六郷一のいや仙北一の金もちになったと。